

2021.10.04 横浜市会 減災対策推進特別委員会

災害から命を守るために必要なこと －「防災意識・自助意識」の再考－

金井 昌信

kanai@gunma-u.ac.jp

群馬大学 大学院理工学府 環境創生部門

広域首都圏防災研究センター

本日の話題

“防災意識”とは、どんな意識？～「日頃から防災意識を高く持とう」の**再考**～

災害に備えて、何をする？～“防災の目標”を**再考**～

本気で考えてる？～地域防災活動、学校防災教育を**再考**～

“いのち”を守るための備えは？～本当にちゃんと考えていますか？～

本当に災害に備えられますか？～防災のとらえ方を**変えてみませんか？**～

まとめにかえて～横浜市さんに少し具体的なご提案～

その1

“防災意識”とは、どんな意識？

～「日頃から防災意識を高く持とう」の再考～

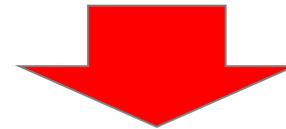
“防災意識”が高いのはどっち？

大地震が危惧され、浸水リスクもあるとある地域

昔からの商店街の中に再開発でマンションが増加



- ・ 生まれも育ちもこの地域
- ・ “町内会長”兼“商店街組合会長”
- ・ 毎年、防災訓練を陣頭指揮



- ・ 結婚を機に、引っ越してきた
- ・ ご近所づきあいに消極的
- ・ 防災訓練への参加、悩み中

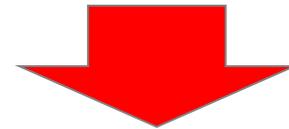
災害で死ぬ低いのはどっち？

大地震が危惧され、浸水リスクもあるとある地域

昔からの商店街の中に再開発でマンションが増加



- ・ 古い木造 2 階建て
- ・ 立派な家財道具
- ・ 木造地域



- ・ 免震構造の高層階
- ・ 備え付けの家具
- ・ オール電化

一研究者として危惧している課題①

多くの日本国民は、

災害への備え（防災）の重要性を知っている。

（自助・共助・公助）

←毎年のように大きな災害が発生

←近い将来、大きな災害の発生が危惧

なんとなく“知っている”だけで、

本気で考えていないのでは？

東京基準の対応（避難方法、災害備蓄）に洗脳されていませんか？

一研究者として危惧している課題①



「リスクよりも、そこに住む価値」を選択したのであれば、
リスクを回避する知恵を持ち、生活する責任がある

重要なこと① 『居安思危（こあんしき）』

有 備
備 あ
無 患
患 無

思 思
則 ば
有 患
備 無

居 安
安 居
思 危
危 思

「なんとなく」
からの脱却
ライフスタイル
に応じた
最適解を考える

出典：「春秋」の注釈書「春秋左氏伝」 左丘明の作と伝えられる
春秋：孔子の編集の史書。前480年頃の編集と伝えられる年代記

その2

災害に備えて、何をする？

～“防災の目標”を再考～

一研究者として危惧している課題②

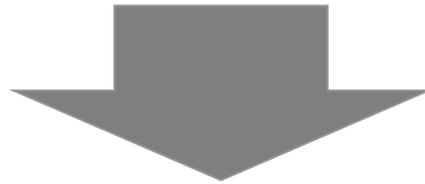
地域防災・自主防災活動

(地域住民が行う防災対策)

その多くが

被災後の対策

被災後の対策
(不便を減らすための対策)



被災前の対策
(“いのち”を守るための対策)

災害種別に応じた“避難のあり方”を考慮

■ 緊急避難 : Evacuation

→ 迫り来る災害に対して、
とにかく 命の危険を回避 するための避難行動



■ 滞在避難 : Sheltering

→ 災害の進展は一段落したものの、
ライフラインが復旧していないなどの理由で、
自宅での生活が困難な場合に、
体育館などの避難場所で寝起きする 避難生活



■ 難民避難 : Refuge

→ 災害からの復旧は一段落したものの、
家屋に被害があるなどの理由で、
自宅での生活が不可能な場合に、
自宅が再建するまで仮設住宅などに入居する 仮住まい



防災の目標は？

〇〇の**最小化**

被害 > **不便** > **不潔**

その3

本気で考えてる？

～地域防災活動、学校防災教育を再考～

一研究者として危惧している課題③

例えば・・・

自主防災組織の物資の備蓄



一研究者として危惧している課題③

例えば・・・

地域や学校で行う防災・避難訓練

やり続けることに意義はあるが、
内容次第では・・・

弊害もある！

重要なこと③ 『本当に必要なことを考える』

× やったりやらなかったりする

(それほど必要ではないと思われてしまう)

× あれもこれもと詰め込む

(どんな状況で何をすべきかがあいまいになってしまう)

○ **できることを積み上げていく**

(これさえやっておけば大丈夫なんてことはない)

その4

**“いのち”を守るための備えは？
～本当にちゃんと考えていますか？～**

避難に関する課題

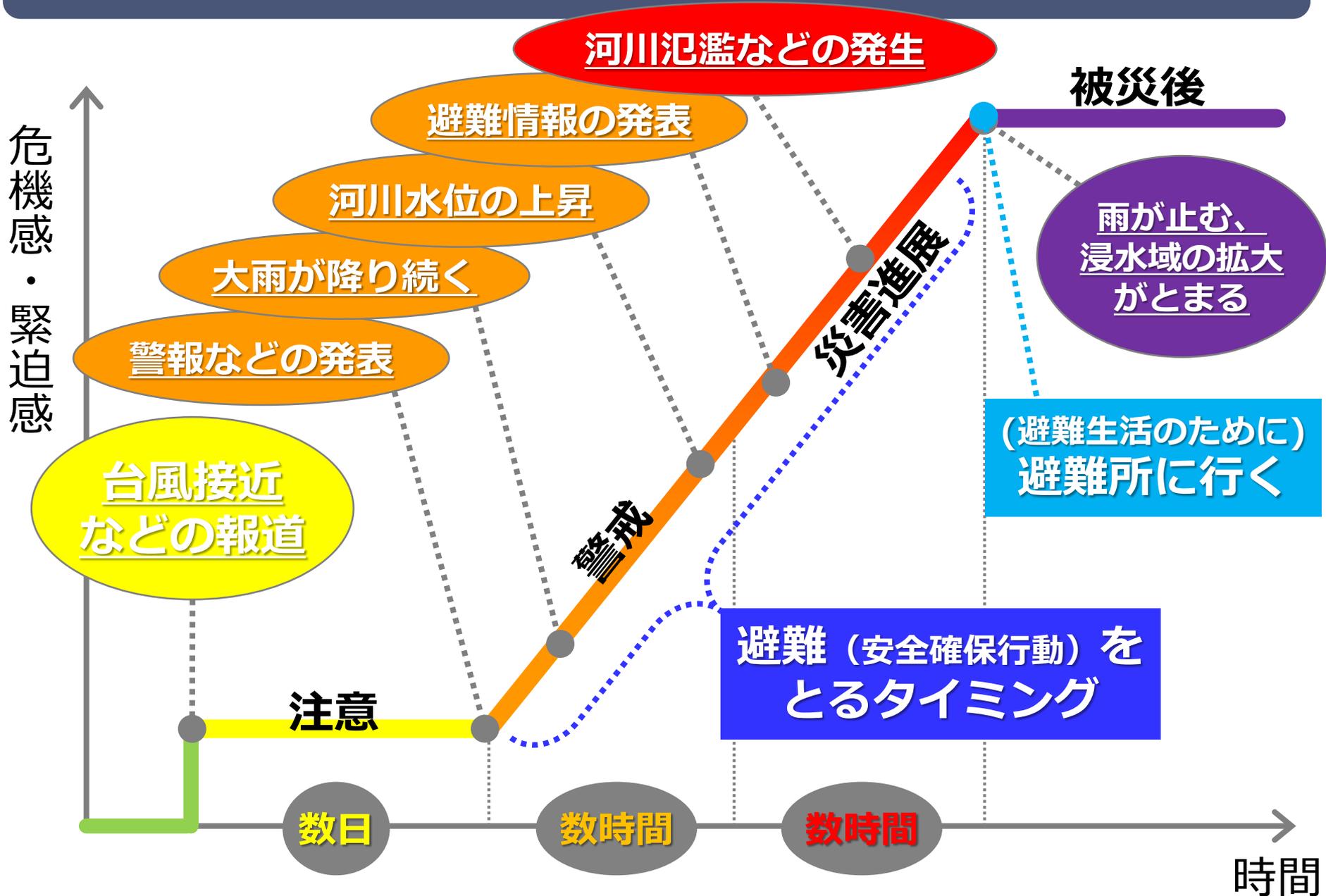
■ 知ろうとしない、考えようとしていない

- ・ 地域でどのような災害の危険性があるのかは、HMなどで公表済み
⇒ 「知らない」のではなく、「**知ろうとしない**」ことが問題！
- ・ 災害報道などからでも、避難に関する情報は、簡単に手に入る
⇒ 「わからない」ではなく、「**考えようとしていない**」ことが問題！

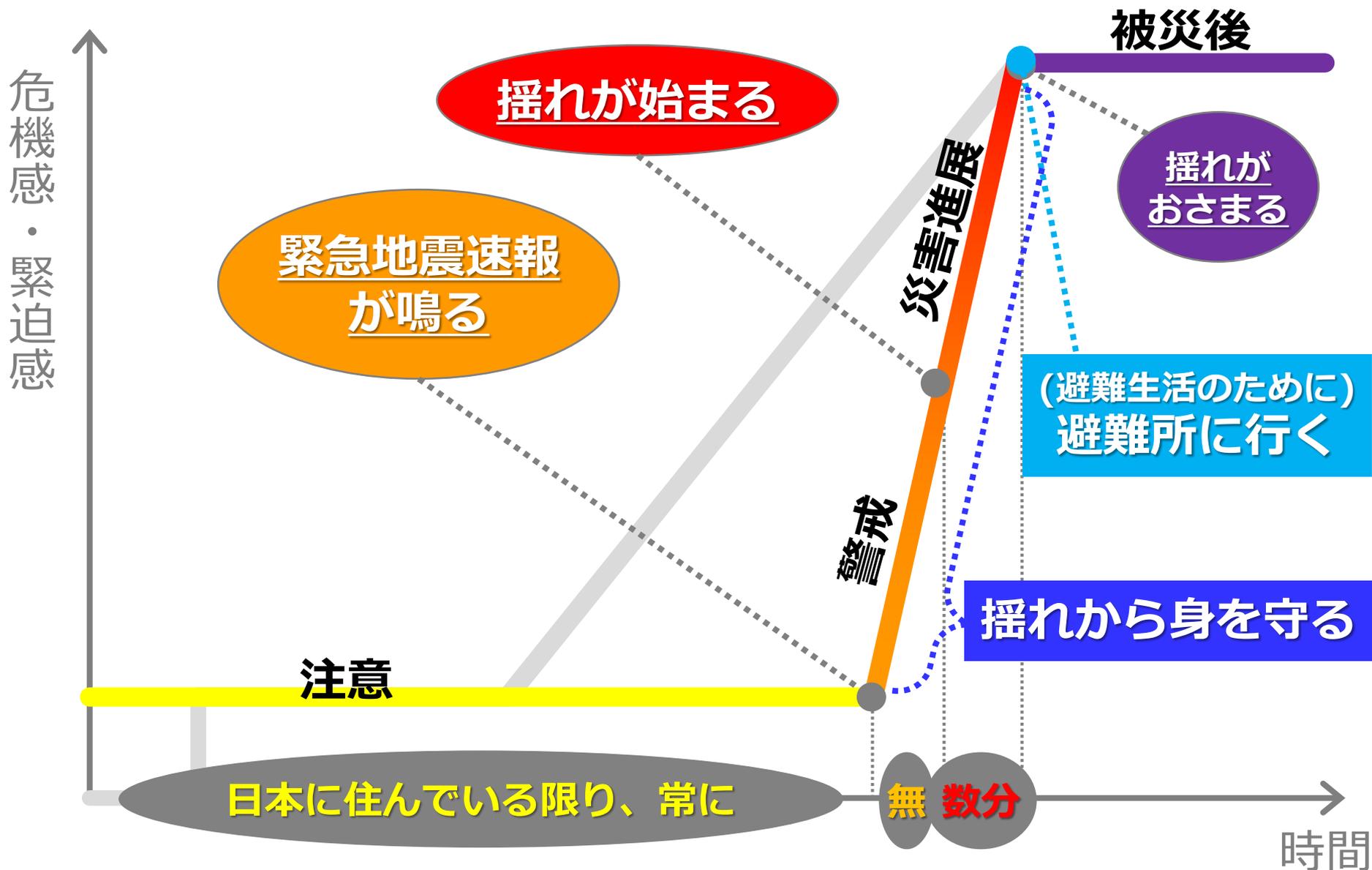
■ 「わかっちゃいるけど・・・」ではなく、 『わかっていても難しい』

- ・ 刻一刻と状況が変化する中で「今がそのとき」と決断するのは困難

風水害から避難することの難しさ



参考：地震からの避難との違い



命を守るために必要なこと (地震と風水害の比較)

	予防的行動 (備え)	発災時行動 (避難)
地震	耐震化、家具固定 ⇒子：必要性を理解するだけ (金をだすのは親)	ゆれから身を守る ⇒子：自分で考えて行動 (今の訓練で大丈夫?)
風水害	リスクを知る、避難方法を検討 ⇒子：自分でも考えられる (転居のたびに考える)	安全確保行動をとる ⇒子：自分で判断できない (意思決定主体は親)

命を守るために、子どもの立場でできることには限界がある

→家庭と連携した学習が必要不可欠

学校防災教育で、あれこれ知識をつめこむことにどれほど意味があるのか?

→その時々で、自ら判断し主体的に行動することが重要

適切な避難のための備え

■ 地域の災害リスクを知る 敵

- ・ どのような災害によって、どの程度のリスクがあるのかを

■ 適切な避難方法を考える

- ・ 災害種別ごとに、命を守るための適切な対応を検討してお

■ 行動できない己を知る

- ・ 死に対して、他人事に考えてしまう（正常化の偏見）
- ・ 置かれた状況を、都合よく解釈してしまう（認知的不協和）
- ・ 何かあったら、他人任せにしてしまう（防災に関する行政体

敵を知り己を知る

私案 | 避難（安全確保行動）のための備え

× どこに逃げるかを考えておく

(例) 何かあったら、最寄りの避難所(学校)に行けばよい

△ いつ、どこに逃げるのかを決めておく

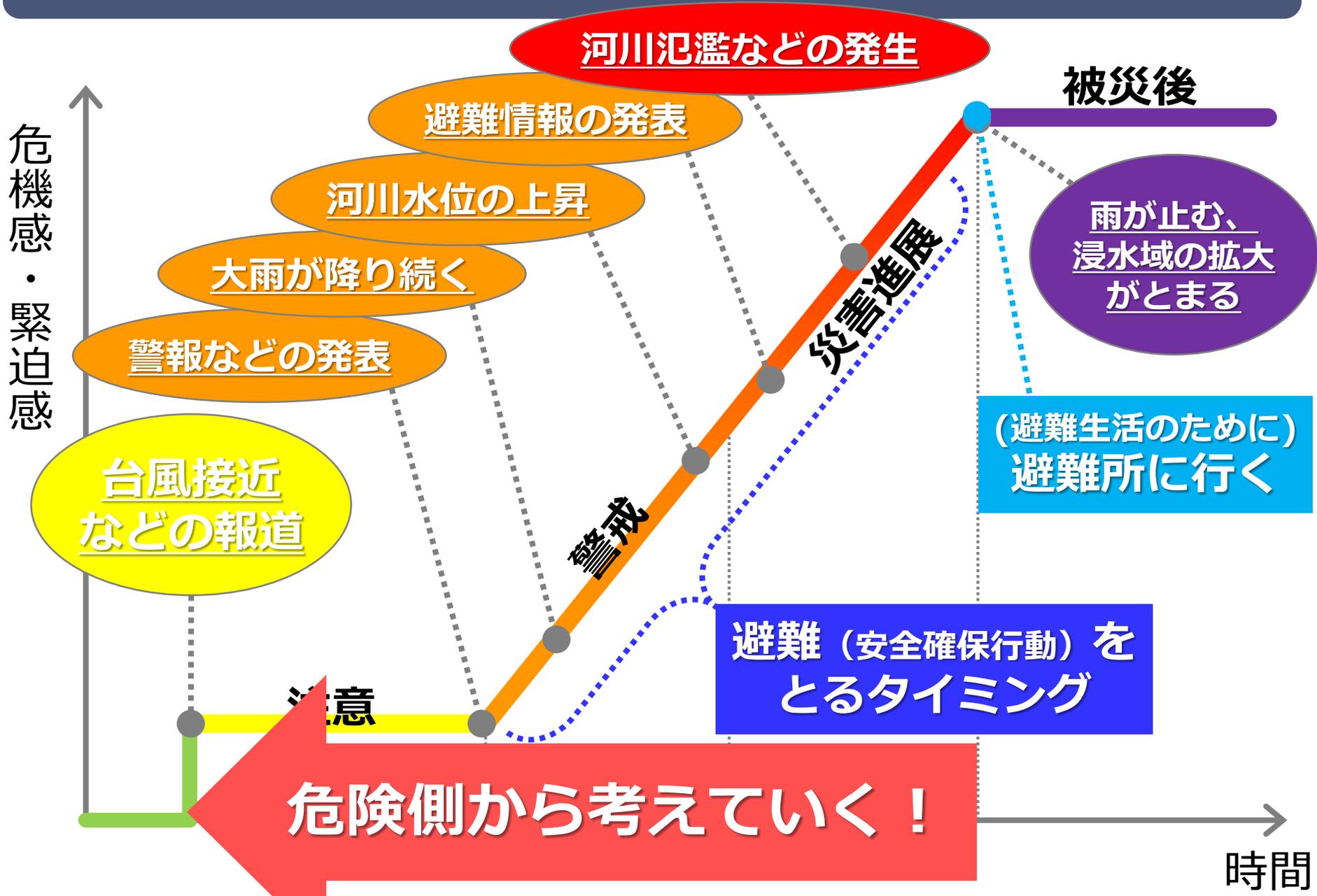
(例) 避難勧告がでたら、最寄りの避難所(学校)に行く

○ 『こういう状況なら、どうする』

という選択肢を複数考えておく

(例) 台風が来る前に、安全なところに住んでいる親戚・知人宅に行く
車で移動できるうちに、高台や立体駐車場で車中避難
外を安全に移動できそうなら、最寄りの避難所に行く
外に出るのが危険な場合、近所の丈夫な建物で待機

私案 | 避難（安全確保行動）のための備え



その5

**本当に災害に備えられますか？
～防災のとらえ方を変えてみませんか？～**

私案 | 皆さんにも考えてほしい

地震から命を守るためには・・・

『耐震補強』『家具の固定』が必要なことは、知識として知っている

例えば・・・80代の高齢者が一人暮らし、耐震補強はしていない

数万円をかけて、耐震診断を行うべきか？

防災の視点からすれば、『行うべき！』

でも、本当にそれで幸せなのだろうか？

防災は『生き方』 = 何を大切にして生きていくのかを主体的に選択

「無意識にしていない」 = 「覚悟がない」ことが問題

私案 | 災害犠牲者ゼロの実現に向けて

日頃から防災意識を高くもとう！



年1回でよいので、

「災害で死ぬかもしれない」 ことを

強く意識して、避難方法などを考える

交通安全・防犯・防疫 → 日頃から注意して行動することで被害軽減

防災 → そのときに適切な行動をとることで被害軽減

その6

まとめにかえて
～横浜市さんに少し具体的ななご提案～

横浜市さんへ | 少し具体的なご提案

■ これだけやれば大丈夫、という唯一絶対の対策はないことを自覚する

大きな対策ではなく、小さな対策を積み重ね、効果の足し算で考える

→市民全員に有効でなくても、これをやれば高齢者は助かる、あれをやれば若者には響く、
といったように、限られた対象だとしても、ターゲットを明確にして対策を考える

■ 「フルスペックの防災」ではなく、最低限を示す

やってない住民が「これは無理だ、できない」とあきらめてしまうような過大な内容ではなく、
実行可能かつ命を守ることにつながる最低限の内容を考える

■ 防災対策、災害対応において、最大の懸念事項は「人の多さ」

被災者が少なければ、すぐに救助できるし、避難生活の支援も十分にできるし、復興も早い
多ければ、救助もできない、支援もできない、混乱だけが大きくなる

→広い「横浜市」、多い「横浜市民」を一つとして考えるのではなく、
地区ごとにその特性を踏まえた細かな対策を考える

→好んで「横浜市」に住んでいることの自覚（＝災害への覚悟）を促す